

大学教育におけるタブレット型端末の利用実態調査

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1142104 松本 併太

1. 研究背景

社会の情報化が急速に発展していく現代では学びにイノベーションが始まろうとしている。今までの、実物投影機やプロジェクターを利用した学習で ICT の活用に加え、学習者どうしが教え合い学び合う協働学習への ICT の活用が求められている。そこで、注目を浴びているのがタブレット型端末である。

総務省では ICT を活用した協働教育の推進に関する調査研究を行っている。平成 22 年度より小学校、中学校、特別支援学校でタブレット端末を使用する「フューチャースクール推進事業」という研究が展開されている。「フューチャースクール推進事業」とは ICT 機器を利用したネットワーク環境を構築し、学校現場における情報通信技術面を中心とした課題を抽出・分析するための実証研究である。

平成 23 年 4 月、文部科学省から出された「教育の情報化ビジョン」の中においても 21 世紀を生きる学習者に求められる力を育む教育を行うためには、学習者の学習や生活の主要な場である学校において、教育の情報化を推進することが必要であると明記されている。その活用例として、タブレット型端末の活用が挙げられている。

タブレット型端末の活用が教育において注目される現在では、新入生全員にタブレット型端末を配るといった大学の学科も出始めている。

2012 年度から徳島文理大学総合政策学部では、アドミッション・オフィス入試により入学を予定する学生がスムーズに大学での学習に接続することを目的として、テレビ電話機能を持つタブレット型端末を用いた遠隔教育による入学前教育が行われている。その結果として、早期に合格した学生の学習の意欲を喪失させない、入学後の学習意欲を喚起し、授業内容を理解できるようになる等の成果が期待されている。

2. 研究目的

タブレット型端末が大学においてどのように使われ、役立っているのかを調査したい。千葉工業大学では現在、1 年生、2 年生に iPad を貸与している。貸与されている学生の一部を対象にアンケートを実施し、タブレット型端末の利用状況を調査する。具体的には、タブレット型端末を使用す

る授業はどのくらい存在するか、どのようなアプリを使用しているか、使用頻度はどのくらいかなどを調査することでタブレット型端末がどのように利用されているのか調査したい。またタブレット型端末を活用している学生と活用していない学生ではどのような差があるのか同時に調査したい。

3. 研究方法

以下の方法で研究する。

- (1) タブレット型端末が教育にどのように利用されているのか、どのような利点、欠点があるのか調査する。
- (2) iPad を貸与されている学生に行うアンケートを設計し実施する。
- (3) アンケートの分析方法を開発し、それを用いて収集したデータを分析し、タブレット型端末の使われ方を明らかにする。
- (4) 分析したデータからタブレット型端末を活用している学生と活用していない学生の差を明らかにする。

4. 進捗状況

タブレット型端末を貸与されている学生の一部を対象に行う、アンケートの設計中である。

5. 今後の計画

今後の計画は以下のものとする。

日程	内容
10 月	作成したアンケートの実施
11 月	アンケートで収集したデータの解析
12 月	データの分析、まとめ
1 月	論文の執筆、発表資料の作成

参考文献

- [1] フューチャースクール推進事業. 総務省. 2014-08-30. http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsin/kyouiku_joho-ka/future_school.html
- [2] 「教育の情報化ビジョン」の公表について. 文部科学省. 2011-04-28. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/1305484.htm
- [3] 水ノ上智邦, 南波浩史, 松村豊大. タブレット端末を利用した大学入学前教育の実践と効果測定. 徳島文理大学研究紀要, 第 85 号, p. 39-44, 2013.